

第6・8学年 総合的な学習の時間 授業案

令和4年9月13日(火)

1 研究主題

豊かな人間力をそなえた子どもの育成
～教科等横断的な情報モラル教育の着実な実践を目指して～

2 単元名 「ホームページの記事を作成しよう」

3 単元設定の理由

- 生徒観・児童観

(略)

- 教材観

SNSの使用による書き込みや動画投稿によるトラブルには、「他者を傷つけてやろう」という悪意を持って発信されたものだけでなく、「情報をみんなに知らせてあげよう」や「正しい情報を教えてあげよう」といった使命感や正義感によって発信された情報が、結果的に誰かを傷つけてしまったり、迷惑をかけてしまったりというケースがある。Society5.0の時代において、子どもたちが、情報を発信する際にその裏側にあるリスクや社会的責任を伴うことも実感できるようにしたい。

本校のホームページの記事をはじめSNS上にあげられたデータは、生徒・児童・保護者・その他、多くの人が目にする。身近なホームページの記事を例として、実際にホームページを作成することで、児童・生徒自身が考え、作成上の注意点を1つ1つ洗い出しながら発信者として大切なことを全員で確認したい。

- 指導観

昨年度から情報モラル教育を校内研究の柱に据え、全職員で推進してきた。本校は義務教育学校であり、義務教育9年間の系統的な見通しを持った教育課程を編成しているが、情報モラル教育についても子どもの発達段階を見据えながら、子ども同士のかかわりを大事にした系統的・段階的な実践を行っていきたいと考えている。

本時では、湖南小中学校のホームページの記事をアップするという活動を通して、どのようなことに気をつけて情報を発信したら、必要な情報を上手に伝えられるかを自分たちで考えさせ、情報の適切な発信力を養っていききたい。

現在の8学年と6学年については、情報モラル教育の提案授業も含め、情報モラル教育実践のモデル学年として特に重点化を図ってきた学年である。

本時では、8年生が6年生と一緒に考えながら、発達段階の異なる学年間で話し合うことで、新たな気付きが生まれ、より深い学びへとつなげたい。ホームページの記事を発信する際の注意点などを異学年で考えることを通して、湖南小中学校ならではの情報モラル教育、子ども同士のつながりのある情報モラル教育を実践していききたい。

自分の発信した情報のリスクと責任について考えさせ、主体的・批判的態度を育てるデジタル・シティズンシップ教育を発達段階に応じてすすめていききたい。

4 本時のねらい

ホームページの記事を作成することを通して、情報の送り手の立場から、情報を発信する際の注意点を理解する。

5 授業の構想

- (1) 6年生、8年生を意図的に編成したグループに分けて活動させ、お互いに意見を交換しながら、良さや課題について話し合い、より適切な記事を作成させる。(手立て1)
- (2) 実際に自分たちが作成した記事が多く目の触れることを意識させながら作成させる。(手立て2)

6 学習過程

学 習 活 動 ・ 内 容	時 間	○指導上の留意点 □小中のつながり ◇評 価
<p>1 ホームページの内容について確認する。</p> <p>2 本時の課題を把握する。 本時の課題について知る。 【本時の課題】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>9月7日(水)に行った「算数・数学」合同授業のホームページの記事を作成しよう。</p> </div> <p>3 ホームページを公開することの影響を考える。 情報を公開することによる載せた方が良くないと気を付けなければいけないことについて考える。</p> <div style="background-color: yellow; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>★【後期課程】市中体連駅伝大会壮行会</p> <p>本日6校時目に、明日開催される市中体連駅伝大会の壮行会が行われました。一人一人が目標達成のために、日々の練習を本当に頑張ってきたと思います。最後まで強い気持ちで走り抜き、タスキをつないでください。全校生で応援しています。頑張れ湖南小中生!</p> </div>	<p>5</p> <p>10</p>	<p>○ ホームページをどんな時に見るかについて発表させることで、ホームページに興味・関心を持たせる。</p> <p>○ 学校のホームページを見て、様々な情報が公開されていることに気付かせる。</p> <p>○ 6年生、8年生が合同で授業を行うことで、6年担任もT2としてサポートする。</p> <p>○ どんな人でもホームページを見ることができ、情報の公開について注意しなければいけないことに気付かせる。</p> <p>○ 教師がいくつかの記事の例を紹介し、日時、場所、時間、活動内容など記事に載せた方が良く、人の名前が書いてある、写っている人の顔がブレているなど気を付けなければいけないことについて考えさせる。</p> <p>○ 過去の児童生徒が活動している写真から、教師が作成した記事をもとに載せた方が良くないと気を付けなければいけないことについて意見を交換する。</p>
<p>4 グループでホームページの内容を検討する。</p> <p>(1) 作成時の注意点について考える。 ・グループでどんなことに注意しながら記事を作成しなければいけないのか確認する。 例：日時、場所、だれが、何をしたか、どうだったか など</p> <p>(2) ホームページに掲載する内容について考える。 ・グループで意見を交換しながら、見る人の興味を引くタイトルを作成する。 ・ロイロノートを使って、グループで、写真選択や記事の作成をする</p>	<p>23</p>	<p>○ 小集団による活動を通して、お互いに意見を交換しながら、ホームページ作成の良さや課題について話し合い、より適切な記事を作成させる。(手立て1)</p> <p>○ 実際に自分たちが作成した記事が多く目の触れることを意識させながら作成させる。(手立て2)</p> <p>○ ロイロノートを活用しながら、ホームページの内容を作成させる。</p> <p>□ 8年生と6年生がお互いに意見を交換しながら、記事を作成させる。困っている場合は、伝えなければいけない必要な情報は何かを提示する。</p> <p>◇ 注意しなければいけない点をふまえながら記事を作成している。(発言、作成した記事)</p>

<p>(生徒が作成する際に予想される例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>9月7日(水)の6校時目に6年生と8年生が「算数・数学」の合同授業を行いました。先生から出された問題を8年生が6年生に教えながら一緒に考え、6年生が先生に求め方を説明しました。8年生は6年生の時に学習したことを思い出しながら、6年生に分かりやすく説明することができました。意見交換をしながら、楽しく「算数・数学」の学習を行いました。</p> </div>	<p>○ T1・T2の役割について次のことに気を付けながら机間指導を行う。</p> <p>T1：作成時の注意点を意識させ、方向性がズレないように個別に指導する。また、児童・生徒たちの思いや考えが相手にうまく伝わるように相手を意識した情報の伝達について考えさせる。</p> <p>T2：グループ内の6年生が話し合いに参加できるように注意点のヒントを与える。</p> <p>例：写真に顔が写っていない、何をしている写真なのか分からない など</p>
<p>5 作成した記事を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループの記事を見て、良いところ、参考にしたいところをまとめる。 <p>6 本時のまとめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日の活動を行っての感想を記入する。 	<p>7 ○ ロイロノートを使って、作成した記事を共有する。</p> <p>5 ○ 本日の活動を通して、発信者としてどんなことに気を付けなければならないのか記入させる。</p>

7 板書計画

<p>課題</p> <p>9月7日(水)に行った「算数・数学」合同授業のホームページの記事を作成しよう。</p>	<p>○伝えたいことは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数・数学の合同授業 ・8年生が6年生に教えた ・6年生が先生に説明
<div style="background-color: yellow; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>★【後期課程】市中体連駅伝大会壮行会</p> <p>本日6校時目に、明日開催される市中体連駅伝大会の壮行会が行われました。一人一人が目標達成のために、日々の練習を本当に頑張ってきたと思います。最後まで強い気持ちで走り抜き、タスキをつないでください。全校生で応援しています。頑張れ湖南小中生！</p> </div> <p>○載せた方がよいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日付 ・場所 ・時間 ・活動内容 <p>○気をつけなければいけないこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の名前が書いていないか ・写真は適切か 	<p>振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報 ・著作権 ・相手を思いやる気持ち

ワークシート

年 氏名

課題

【1】 ホームページについて

○記事に載せたほうが良いこと

●気をつけなければいけないこと

【2】 記事の作成

伝えたいことは？

【3】 ふりかえり

○今日の授業で、分かったこと、気をつけなければいけないことを記入しよう。

音楽科授業案

令和4年11月15日(火) 5校時
場所 音楽室

1 研究主題

豊かな人間力をそなえた子どもの育成
～教科等横断的な情報モラル教育の着実な実践を目指して～

2 題材名 和楽器に親しみ、そのよさを味わって演奏しよう

3 題材設定の理由

○ 生徒観

(略)

○ 教材観

和楽器学習の教材としては、箏や三味線、尺八など様々な教材があり、いずれも西洋の楽器と比較した際に音色や奏法の違いが明確であるため非常に高い学習効果が期待できる。また、上述したように、本校でも箏の学習の機会を設けている。しかし、生徒がより深い学びを目指すという点においては、楽器の数を調達することが困難であったり、取り上げる時期を考える必要があったり、和楽器に触れる機会の充実という観点から多くのハードルがある。和楽器の学習においては、単なる体験にとどまらず、3年間の継続した学習の中で和楽器の響きと奏法との関わりについて理解したり、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法などの技能を習得したりしながら、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるようにすることが大切である。これらのねらいを達成するためには、比較的安価かつ持ち運びが容易で手軽に学習ができる篠笛が最適であると考え、本教材を選択した。記譜についても、漢数字を用いた篠笛独自の譜面であり、西洋音楽の五線の楽譜に苦手意識をもつ生徒たちも同じスタートラインに立ち、意欲的に取り組むことができる教材であると言える。

○ 指導観

我が国で古くから歌われ親しまれているわらべうたを演奏することで、日本音楽に用いられる音階や間、奏法などに触れながら、豊かな表現をするために必要な演奏技術を身に付けさせたい。篠笛独特の奏法と、その奏法がもたらす効果やよさを感じることができるよう、これまで取り組んできたリコーダーと比較するなどして、音と音のつながり方の違いに気付かせたい。ただ音を出すだけではなく、和楽器の特徴を捉え、日本音楽のよさを味わいながら主体的・協働的に表現活動に取り組み、「国際社会に生きる日本人として、そのよさや魅力を堂々と語る生徒」の育成を目指したい。

また、情報モラル教育の観点においては、篠笛独特の奏法とその効果を拠り所にして日本音楽ならではの魅力が伝わるよう工夫した演奏発表を映像として記録し、インターネット動画サイトを利用して発信(今回は限定公開で校内関係者のみ)する準備を体験することを通して、生徒が自分たちの意思で自律的にデジタル社会と関わっていくためのデジタル・シティズンシップを身に付けていくきっかけとしたい。

※ デジタル・シティズンシップとは、「情報技術の利用における適切で責任ある行動規範」を指す。テクノロジーに関する倫理的・文化的・社会的問題を理解し、責任を持って、かつポジティブにそれを利用するための規範である。

4 題材の目標

(1) 篠笛の音色や響きと奏法との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。

【A表現(2)イ(イ)知識 ウ(ア)技能】

(2) 篠笛の奏法やわらべうたの旋律(音と音のつながり方)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、器楽表現を創意工夫する。

【A表現(2)ア 思考力、判断力、表現力等】

(3) 篠笛の奏法によって生み出される音と音のつながり方の違いに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組むとともに、我が国の伝統音楽に親しむ。

【学びに向かう力、人間性等】

5 題材の指導計画（総時数6時間）

	□ねらい	○ねらいを達成・確認するための活動や手立て、留意点
1	□ 篠笛の取り扱いや手入れ方法を知るとともに、息の入れ方や構え方などの基本的な音の出し方を身に付ける。	○ 予め作成しておいたパワーポイントのプレゼンファイルを用いて、篠笛の取り扱い方法や息の入れ方などわかりやすく提示する。 ○ 初めはコツが掴めず全く音が出ない生徒もいることが予想されるため、音が出ない生徒に対しては個別に対応するなど丁寧に指導する。
2	□ 篠笛の基本的な運指（五の音、六の音）を身に付け、簡単な練習曲を演奏できるようにする。	○ 手孔の押さえ方に関しては、特に右手の押さえ方に関して丁寧に確認する。 ○ 五の音、六の音の運指を覚え、練習曲の「プー」、「とうふやさん」を練習する。 ○ 簡単な曲でも、プロの演奏を聴かせることで、篠笛の音色や響き、間の取り方によっても大きく印象が変わることを実感させる。
3	□ 篠笛音楽の日本らしさや独特の味わいは、はねる奏法によって生み出される音と音のつながり方によって醸成されることに気付く。	○ リコーダーの演奏と篠笛の演奏の両方を聴かせて比較することで、音と音のつながり方の違いに気付かせる。 ○ はねる奏法の練習をする。音が上手く出なくてもはねる奏法の手順を守るように助言する。 ○ 練習曲「たこたこ上がれ」を練習する。 ○ 同じ音が続く際には、必ずはねる奏法を用いるように助言する。
4	□ はねる奏法の技能を身に付けるとともに、奏法を生かしてわらべうたをどのように演奏するかについて思いや意図をもつ。	○ 上位生徒、下位生徒のバランスを考慮した4人のグループを3班づくり、それぞれのグループで上位生徒が下位生徒をサポートできるグループ編成をする。 ○ 「ほたるこい」「かえるが鳴くから」「正月さまござった」の3曲のわらべうたの中から練習する曲を選んでどのように演奏したいのかを話し合いながら練習する。 ○ 音と音のつながり方（旋律）や音色、間の取り方（リズム）、速度など、どんなことを意識すればよいかヒントを与える。
5 (本時)	□ はねる奏法と音と音のつながり方の関わりを理解するとともに、奏法を生かし、日本音楽のよさが伝わるよう創意工夫をしながらわらべうたを演奏する。	○ 篠笛のはねる奏法や間の取り方などを、自分たちの思いや意図に基づいてグループで話し合いながら練習する。 ○ 日本音楽のよさを伝えるために工夫したポイントや聴いてほしいポイントなどについてフリップにまとめる。 ○ 映像を撮影する際に積極的に記録すべきことや、公開する範囲によって注意すべきことについて考える。
6	□ 本題材の学習を振り返り、身に付けた演奏技能のより確実な定着を図るとともに、次年度の篠笛の学習に向けて見通しをもつ。	○ 前時に撮影した映像を視聴したりしながら、日本音楽のよさが伝わる演奏ができているかどうかを振り返る。 ○ 学級全員で篠笛の奏法を生かしてわらべうたを演奏し、学習の成果を振り返るとともに、篠笛のよさを味わう。 ○ 次年度に学習する内容について知る。

6 本時の目標

はねる奏法と、音と音のつながり方の関わりを理解するとともに、これまでの授業で身に付けた奏法を生かし、日本音楽のよさが伝わるように創意工夫をしながらわらべうたを演奏する。

7 授業の構想

- (1) 篠笛音楽において奏者に委ねられている、はねる音の長さや間の取り方などの表現の仕方を、グループで話し合いながら練習させることで、より自分たちの思いや意図を反映させた演奏を発表できるようにする。（手立て1）
- (2) 日本音楽ならではの魅力が伝わるよう工夫した演奏発表を映像として記録し、インターネット動画サイトを利用して発信（今回は限定公開で校内関係者のみ）するための準備をすることで、生徒が自分たちの意思で自律的にデジタル社会と関わっていくためのデジタル・シティズンシップを身に付けるきっかけにする。（手立て2） **※情報モラルに関わる内容**

8 学習過程

学習活動・内容	時間 (分)	○指導上の留意点 ◇評価 情 情報モラル
<p>1 前時までの学習を確認する。</p> <p>① 篠笛音楽の日本らしさや独特の味わいを生み出す奏法について</p> <p>② 創意工夫を生かした表現をするために意識すべきことについて</p> <p>2 学習課題をとらえる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>篠笛のはねる奏法を生かして日本の音楽のよさや魅力が伝わるように創意工夫して演奏しよう。</p> </div>	<p>3</p> <p>2</p>	<p>○ 篠笛音楽の日本らしさや独特の味わいは、はねる奏法から生まれる音と音のつながり方から醸成されていることを確認する。</p> <p>○ はねる奏法以外にも間の取り方や音色、音の長さなど工夫できる点があることを確認する。</p> <p>○ ロイロノートを活用し、生徒がいつでも本時の学習課題を確認できるようにする。</p> <p>情 情報モラル教育の視点から、日本音楽の“よさや魅力を伝える”ことが大切だということを意識させる。</p>
<p>3 グループ毎に発表曲を練習する</p> <p>① 前時に選択したわらべうたの表現について、演奏を練り上げる。</p> <p>② 工夫したポイントや聴いてほしいポイントを発表用のフリップに記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【予想される生徒の工夫点 (例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夕方の陽が落ちる穏やかな雰囲気を出すために、はねる奏法で生まれるこぶしをたっぷり響かせる。 ・ お正月がきてうれしい気持ちを表すために、はねる奏法で生まれるこぶしを素早く軽快に演奏する。 ・ ほたるを誘っているような雰囲気を出すために、「苦いぞ」と「甘いぞ」の最後の音を長めにして、行と行の間をたっぷり空ける。 </div>	<p>15</p>	<p>○ 「ほたるこい」「かえるが鳴くから」「正月さまござった」の3曲を、はねる音の長さや間の取り方などの表現の仕方をグループで話し合いながら練習させる。(手立て1)</p> <p>○ ロイロノート内に、発表用のフリップとして使用するカードを予め準備しておく。</p> <p>○ 各グループがそれぞれどのように表現したいのか、自分たちの思いや意図をもって練習できるように、必要に応じて助言する。</p> <p>◇ はねる奏法と、音と音のつながり方の関わりを理解しているか。<観察><フリップ></p>
<p>4 映像をインターネットで発信する際に注意すべき点について考える。</p> <p>① 映像の公開範囲について</p> <p>② 公開にあたって注意すべき点について</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【全世界に公開すべき】</p> <p>◎ 日本音楽のよさを発信するなら全世界に公開すべき。</p> <p><注意点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 名前や顔が鮮明に映らないように離れて録る。 ・ 顔や名札にモザイク。 ・ 期間限定で公開する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【限定公開にすべき】</p> <p>◎ 顔と名前が広く公開されてしまうのはトラブルが心配。</p> <p><注意点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本人に公開してよいか必ず許可を取る。 ・ いたずらや誹謗中傷がないようコメントはオフにする。 </div> </div>	<p>10</p>	<p>情 全世界に向けて公開する場合、学校の関係者のみの限定公開にする場合のそれぞれのケースで考える。また、注意すべき点だけでなく、音楽科としてのねらいである、日本音楽のよさを発信するために積極的に記録した方がよいことについても考える。生徒から出た意見やアイディアについて、ロイロノートの提出箱を活用して共有する。(手立て2)</p>
<p>5 グループ毎にわらべうたを発表する。</p> <p>① グループで創意工夫した点や特に聴いてほしい部分、映像として特に記録してほしい部分についてグループの代表者がフリップを用いて発表する。</p> <p>② 演奏を発表する。</p> <p>③ 撮影担当グループが演奏を記録する。</p>	<p>15</p>	<p>○ フリップをディスプレイに映し、グループで創意工夫した点を共有する。</p> <p>◇ はねる奏法を生かし、日本音楽のよさが伝わるように創意工夫をしながらわらべうたを演奏しているか。<演奏(器楽)></p>
<p>6 本時を振り返る</p> <p>① Google Forms の振り返りフォームに、本時のねらいを達成できたかどうか等、感想を入力する。</p> <p>② 数名の生徒の感想を共有する。</p>	<p>5</p>	<p>○ 授業のまとめや振り返りの際に使用している Google Forms を利用し、生徒の学びの過程や成果を蓄積し評価にも生かすようにする。</p> <p>○ Google スプレッドシートにリアルタイムで反映される数名の生徒の感想を取り上げ、共有することで学級全体の学びを深める。</p>

9 板書計画

○授業で使用するパワーポイントのスライド

和楽器に親しみ
そのよさを味わって
演奏しよう

～篠笛の表現を通して
 日本音楽の魅力に触れる～

1

篠笛独特の奏法

同じ音が並ぶときに
指をピョンと
はねる奏法

から生まれている

＊日本の笛では、リコーダーのようなタンピングをしません。同じ音が並ぶときには、手孔をおさえている指を瞬時にはねたり、手孔を指で打ったりして音のきれめをつくります。

2

はねる奏法で
曲を吹いてみよう

かこたこあがれ

六^ハ 六^ハ
 六^ハ 五^ニ
 五^ニ 六^ハ
 五^ニ 五^ニ
 六^ハ 六^ハ
 六^ハ 六^ハ
 六^ハ 六^ハ
 六^ハ 六^ハ
 \

＊「ハ」は「指合のいい音をのぼすしてから2分を高く」とあるので感ってください。
 ＊「六」は左手の人差し指を、「五」は中指をピョンとはねて音を切ります。

3

★創意工夫するポイント★

①どうはねる？
 →ここがしどろつくるか!?
 →これが1番大切!必須!

②間の取り方は?
 →次の行までの間をどう取るか!?

③伸ばす音の長さは?
 →音の長さで印象も変わる!?

④どんな音色で?
 →余韻はどう残す!?音の揺れは!?

演奏のための
表現のポイント

4

本時の目標

篠笛のはねる奏法を生かして、
 日本音楽のよさや魅力が伝わるように
 創意工夫して演奏しよう

～我が国や郷土の伝統音楽の魅力を発信!～

5

はねる奏法を
使いこなそう

連指確認表

六^ハ 六^ハ 六^ハ 六^ハ
 ・ 六^ハ 六^ハ 六^ハ 六^ハ
 六^ハ 六^ハ 六^ハ 六^ハ
 ・ 六^ハ 七^ニ 七^ニ 六^ハ
 五^ニ 六^ハ 六^ハ 五^ニ
 五^ニ 六^ハ 六^ハ 五^ニ
 六^ハ 三^ハ 三^ハ 六^ハ
 ・ ・ ・ ・

6

はねる奏法を
使いこなそう

かまが鳴くから

六^ハ 六^ハ
 六^ハ 六^ハ
 六^ハ 六^ハ
 六^ハ 六^ハ
 五^ニ 七^ニ
 五^ニ 六^ハ
 六^ハ 五^ニ
 六^ハ 六^ハ
 ・

7

はねる奏法を
使いこなそう

正月はこころよく

五^ニ 六^ハ 六^ハ
 六^ハ 五^ニ 六^ハ
 六^ハ 五^ニ 五^ニ
 六^ハ 五^ニ 五^ニ 六^ハ
 五^ニ 五^ニ 六^ハ 六^ハ
 六^ハ 六^ハ 六^ハ 三^ハ
 六^ハ 三^ハ 三^ハ
 三^ハ 三^ハ
 \ 三^ハ
 \ 三^ハ
 \

8

